

2020年1月号(833号)

食育。次世代への有り様

■特集	先進的な食育に取り組む鯖江市の実践 新しい生活者に寄り添う食育とは いま待ったなしに食育と食農教育	帰山 順子 太田 恵理子 上岡 美保
■特別企画	令和元年度アグリフードEXPO輝く経営大賞 ~駆け上がる地域農業の担い手たち~ 有限会社舟形マッシュルーム/山形県 新春座談会♥「農と食の邂逅」 脇役から主役へ 女性農業が、離陸した	
■経営紹介	堀養蜂園/岐阜県	
■変革は人により	藤井 雄一郎 有限会社藤井牧場/北海道	

■観天望気	東京2020大会と「食」の持続可能性	松本 恵
■フォーラムエッセイ	食べること、生きること	中江 有里
■まちづくりむらづくり	JAおおいた「オアシス春夏秋冬」/大分県中津市	岡本 真徳
■耳よりな話	鳥インフルエンザと水辺の関係	清水 友美子
■書評	京都大学経済研究所附属先端政策分析研究センター 編 「政策をみる眼をやしなう」	武本 俊彦
■インフォメーション	持続可能な農林水産業を見据え公庫に期待すること 広域ネットワークを活かした展示商談会を開催 東北6県の日本公庫各支店 女性・高齢者・農福連携など人材活用をテーマに講演 近畿地区総括課 県内新規就農者同士のネットワークづくりを支援	情報企画部 奈良支店
■その他	みんなの広場・編集後記 第13回アグリフードEXPO大阪2020	

2020年2月号(834号)

国産材促進の方策を追う

■特集	みんなで取り組むウッド・チェンジ 国産材の需要をひらく新たな挑戦 CLT集成材の活用が国産材を復活	長野 麻子 高田 克彦、佐々木 貴信 佐々木 幸久
■情報戦略レポート	5年前に比べ女性の雇用割合が増加 景況感、改善するも低迷抜けず —農業景況調査(2019年7月調査)—	
■経営紹介	Bioフォレストレーション株式会社/神奈川県	
■変革は人により	日高 勝三郎 日高勝三郎商店/宮崎県	

■フォーラムエッセイ	真冬の雪のなかにも	平松 洋子
■主張・多論百出	森林ジャーナリスト	田中 淳夫
■耳よりな話	中国の食糧難を救ったマルチ栽培	吉岡 宏
■まちづくりむらづくり	有限会社荒神の里・笠そば/奈良県桜井市	山本 信廣
■書評	藤井 一至 著 『土 地球最後のナゾ 100億人を養う土壌を求めて』	青木 宏高
■インフォメーション	オープンイノベーションで創り出す 新しい林業ビジネス 林野庁 森林整備部 整備課 造林間伐対策室	
■その他	みんなの広場・編集後記 第13回アグリフードEXPO大阪2020	

■観天望気	木を見て、森も見て	寺岡 行雄
■農と食の邂逅	尾池 美和/香川県	青山 浩子

2020年3月号(835号)

酪農経営最前線: NOW

■特集	メガロボットファーム化進む北海道酪農 先細りの都府県酪農、復活の糸口とは カッコイイ酪農へ、スマート農業の挑戦	斉藤 裕基 細井 洋行 菱沼 竜男
■情報戦略レポート	耕種・畜産とも売上高は横ばい 収益は費用増で減益 —2018年農業経営動向分析(個人経営)—	
■経営紹介	有限会社アグリプラント/山口県	
■変革は人により	伊藤 武範 株式会社アジチファーム/福井県	

■主張・多論百出	株式会社ファームステッド	長岡 淳一
■耳よりな話	技術革新著しい搾乳機械	加茂 幹男
■まちづくりむらづくり	株式会社氷川のぎろちょっ/熊日宮原販売センター 熊本県八代郡氷川町	岩本 剛
■書評	丸山 俊一+NHK「欲望の時代の哲学」制作班 著 『マルクス・ガブリエル 欲望の時代を哲学する』	宇根 豊
■インフォメーション	千葉ジェッツに学ぶ経営を強くするノウハウ 林業の専門家が語る里山や木材利用の可能性 異業種からの農業参入を実例から学ぶ 雇用問題や地域課題に農業経営が貢献できること	千葉支店 近畿地区総括課 富山支店 北見支店
■その他	資金紹介 みんなの広場・編集後記 第15回アグリフードEXPO東京2020	

■観天望気	家族酪農の発信力	鶴川 洋樹
■農と食の邂逅	丸尾 美香/兵庫県	青山 浩子
■フォーラムエッセイ	忘れられない牛乳の味	草刈 正雄

2020年4月号(836号)

短期集中3回連載「SDGs、その役割を問う」①「食品ロス」削減の潮流

■特集	いま、「食品ロス」が問いかけること 食料には「つくる責任」と「つかう責任」 廃棄物発生抑制に果敢に挑む企業、地域	小林 富雄 ポリコ M.チャールズ 井出 留美
■情報戦略レポート	耕種・畜産とも売上高横ばい 費用増で多くの業種で減益 —2018年農業経営動向分析(法人経営)—	
■新・農業人	鈴木 崇文 株式会社ベストシーン/和歌山県	
■変革は人により	田中 勝三 株式会社セントラルフルーツ/京都府	

■主張・多論百出	しずおかコンシェルジュ株式会社	海野 裕子
■耳よりな話	パスタの品質を表す言葉	早川 文代
■まちづくりむらづくり	鶴岡市役所/山形県鶴岡市	高橋 和博
■書評	田中 信一郎 著 『政権交代が必要なのは、総理が嫌だからじゃない』	武本 俊彦
■インフォメーション	オホーツクで学ぶ学生と地元での就農を考える 事業計画の作成手法を学び経営を考えるワークショップ データ収集と分析に基づく分かりやすい助言のコツ 地元のレアな農産品を実需者につなぐ機会を提供 台湾で商談会開催 初めての輸出を後押し	北見支店 岡山支店 神戸支店 長野支店 情報企画部
■その他	編集後記 農業経営アドバイザー 牛舎に行かないコンサル	井崎 敏彦

■観天望気	マインドの時代	山田 敏之
■農と食の邂逅	吉原 サラ/岡山県	青山 浩子
■フォーラムエッセイ	美味しい信州	山本 麗子

2020年5月号(837号)

短期集中3回連載「SDGs、その役割を問う」② 多様な人材を生かす農業

■特集	地域共生社会づくりにつながる農福連携 シングルマザー移住が地域環境底上げ 農福連携は付加価値を生み癒し効果も	豊 輝久 山田 優 本誌編集部(特別取材班)
■情報戦略レポート	「簡便化」が「経済性」を初めて上回る 食品の購入判断は7割が価格に集中 一消費者動向調査(2020年1月調査)一	
■新・農業人	福田 新也 株式会社FORTHHEES/長崎県	
■変革は人にあり	大出 祐造 株式会社誠和/栃木県	
■観天望気	食育に学ぶこと	アグネス・チャン
■農と食の邂逅	地主 佳代子/三重県	青山 浩子
■フォーラムエッセイ	今日のご褒美、明日の楽しみ	西村 元貴

■主張・多論百出	一般社団法人 持続可能な地域社会総合研究所	藤山 浩
■耳よりな話	ロボット農機を社会に届ける準備	杉本 光穂
■まちづくりむらづくり	藤沢活性化協議会/青森県平内町	森田 泰男
■書 評	竹下 大学 著 『日本の品種はすごい うまい植物をめぐる物語』	青木 宏高
■インフォメーション	講演と討議を通じ林業界の課題を考える 大都市圏での店舗展開を柿農家が語る 農業分野の法務に目を向け同業者と交流する 観光農園経営者から儲かる農業を学ぶ	九州地区総括課 奈良支店 高松支店 甲府支店
■その他	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農林漁業者の皆さまへ みんなの広場・編集後記	
■農業経営アドバイザー	リスクを回避する視点が重要	池田 太

2020年6・7月号(838号)

※新型コロナウイルス感染症の影響で、合併号とさせていただきます。

短期集中3回連載「SDGs、その役割を問う」最終回 自然資本の経済はじまる

■特集	自然資本に配慮した持続可能な産業 環境への負荷の小さい農業を広げる 水産エコラベルは産業と生活の架け橋	藤田 香 小野 邦彦 垣添 直也
■情報戦略レポート	新しく始まった収入保険制度への加入状況 —2020年1月調査—	
■新・農業人	大石 博/神奈川県	
■変革は人にあり	中森 剛志 中森農産株式会社/埼玉県	
■観天望気	オーガニックは不可能じゃない	高橋 勉
■農と食の邂逅	山田 奈緒/滋賀県	青山 浩子
■フォーラムエッセイ	おいしいひと皿	宮本 しばに

■主張・多論百出	グリーンカルチャー株式会社	金田 郷史
■耳よりな話	日本発の環境制御システム	吉岡 宏
■まちづくりむらづくり	農事組合法人福の里/山口県阿武町	市河 憲良
■書 評	福田 栄洋 著 『イネという不思議な植物』	宇根 豊
■インフォメーション	第15回アグリフードEXPO東京2020開催中止のお知らせ 金沢支店発 勉強会と交流会を開催しました	情報企画部
■その他	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農林漁業者の皆さまへ みんなの広場・編集後記	
■農業経営アドバイザー	「八百屋の学問」を実践する	木山 雅人

2020年8月号(839号)

業務用取り戻す国産野菜

■特集	野菜の需給をめぐる構造的課題と対応 野菜生産サプライチェーンと持続経営 野菜流通で存在意義高まる中間事業者	佐藤 紳 松田 恭子 大泉 一貫
■特別企画	令和農業の視点 こうして輸出を伸ばした	
■変革は人にあり	島田 慎二 株式会社千葉ジェッツふなばし/千葉県	
■新・農業人	廣瀬 敬一郎 大地堂/滋賀県	
■観天望気	加工・業務用野菜の現場から	木村 幸雄
■フォーラムエッセイ	甘くておいしい赤い実	緒川 たまき
■主張・多論百出	株式会社ナチュラルアート	鈴木 誠

■まちづくりむらづくり	一般社団法人そらの郷/徳島県三好市	出尾 宏二
■耳よりな話	日本初の民間洋式牧場	加茂 幹男
■書 評	大竹 道茂 著 『江戸東京野菜の物語 伝統野菜でまちおこし』	青木 宏高
■インフォメーション	後継者不在の農業用ハウス 再整備・改修して後継者につなぐ支援が始まりました 農林水産省生産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室 農業者と農林水産省をつなぐMAFFアプリ、使っていますか 農林水産省大臣官房政策課	
■その他	新型コロナウイルス感染症の影響を受けた農林漁業者の皆さまへ みんなの広場・編集後記	
■農業経営アドバイザー	設備投資のリスクと判断	久田 博司

2020年9月号(840号)

持続する水産業への視点

■特集	特別寄稿 水産業の未来に向けて 調理済み魚の直販で挑戦する水産加工 「海と生きる」漁業者が協業し課題に挑む 「豊洲市場」が担うべき新たな役割	長谷 成人 小澤 弘教 鈴木 一朗 小松 正之
■情報戦略レポート	コロナ下で調理時間増える 食の志向は経済性志向が上昇 一消費者動向調査(2020年7月調査)一	
■変革は人にあり	良川 忠必 株式会社長崎ファーム/東京都	
■観天望気	「スマート」な水産業	宮下 和士
■主張・多論百出	有限会社フード・サポート	細川 良範
■フォーラムエッセイ	奈留島のある漁師さん	村上 康成

■まちづくりむらづくり	企業組合遊子川ザ・リコピズ/愛媛県西予市	辻本 京子
■耳よりな話	大規模施設園芸の運営に4つのポイント	田口 光弘
■書 評	金子 修治・鈴木 紀之・安田 弘法 編著 『博士の愛したジミな昆虫』	宇根 豊
■インフォメーション	人をつなぐノウハウを活かし産業界の人材マッチングを後押し 日本政策金融公庫農林水産事業業務報告会を開催 農林水産物・食品の輸出・海外展開に取り組む方に 新たな資金制度ができました	札幌支店 情報企画部 融資企画部
■その他	新型コロナウイルス感染症・令和2年7月豪雨に係る 特別制度が措置されています みんなの広場・編集後記	
■農業経営アドバイザー	数字に強い本物の農業経営を	工藤 秋一

2020年10月号(841号)

スマート農業の扉が開く

■特集	もうかるビジネス、住みやすい農村へ 自動化・無人化。次世代農業技術開発 フードチェーン視野に北海道農業展望	三輪 泰史 飯田 聡 野口 伸	■フォーラムエッセイ	夏の思い出	内田 恭子
■特別緊急企画	コロナ禍における農林水産物・食品輸出 その動きとジェトロの支援策	中 裕伸	■耳よりな話	温暖化がもたらす新たな機会	杉浦 俊彦
■変革は人により	竹延 哲治 ファロスファーム株式会社/大阪府		■まちづくりむらづくり	ケロンの小さな村/石川県能登町	上乘 秀雄
■新・農業人	大森 陽平 有限会社ジェイ・ウィングファーム/愛媛県		■書 評	三次 理加 著 『お米の先物市場活用法』	武本 俊彦
■観天望気	スマート農業は技術の掛け算	湯川 智行	■インフォメーション	販路の多角化へ取り組む皆さまへ 「#元気いただきますプロジェクト」のご紹介 リスクマネジメント研修で講師を務めました 「アグリフードEXPOオンライン」開設のお知らせ	農林水産省 帯広支店
■主張・多論百出	フリーフロム株式会社	山崎 寛斗	■その他	新型コロナウイルス感染症・令和2年7月豪雨に係る特例制度が措置されています みんなの広場・編集後記	
■農と食の邂逅	鈴木 佐江子・希巴江/静岡県	片柳 草生	■農業経営アドバイザー	経営にゴールなし 支援者がいれば困難越え成長する	古賀 久子

2020年11月号(842号)

シリーズ特集:事業承継最前線/稲作経営

水田農業・承継のカタチ

■特集	親子間の考え方の違いを乗り越える 若者を育成雇用し、地域農業を維持 中山間集落の維持へ多様な取り組み	福原 昭一・悠平 青山 浩子 山田 優	■観天望気	農業資源のバトンパス	柚木 茂夫
■農と食の邂逅	吉野 隆子 オーガニックファーマーズ名古屋/愛知県		■情報戦略レポート	コロナ後の課題は需要の変化に対応した商品開発 —食品産業動向調査(2020年7月調査)—	
■新・農業人	柴原 信行 AGRIMOON/島根県		■主張・多論百出	一般社団法人アグリフューチャージャパン	合瀬 宏毅
■変革は人により	川村 静功 株式会社KAWACHO RICE/青森県		■フォーラムエッセイ	石垣の海で見たもの	ココロコ 田中 直樹
			■まちづくりむらづくり	北海道遠別農業高等学校/北海道遠別町	石川 ウーリーエル
			■書 評	『100歳まで元気でボケない食事術』	青木 宏高
			■インフォメーション	国産農水産物の展示商談サイト 「アグリフードEXPOオンライン」のご案内	
			■その他	みんなの広場・編集後記	
			■農業経営アドバイザー	生産者のありたい姿を実現する	仲野 真人

2020年12月号(843号)

シリーズ特集:事業承継最前線/畜産経営

どう継ぐのか、生産基盤

■特集	協業法人を設立し事業承継の不安解消 農家の事業承継を支援する食鳥企業 畜産業の事業承継を円滑に進めるには	佐藤 裕司 辻 貴博 村上 一幸	■観天望気	日本産のワイン	玉村 豊男
■農と食の邂逅	足立 浩沙・兼藤 夢 ナカパヤシ株式会社 兵庫工場/兵庫県		■情報戦略レポート	景況感はコロナ禍で大幅に悪化 担い手農業者は高い投資マインド —農業景況調査(2020年7月調査)—	
■新・農業人	吉見 雅史 アスパラマル株式会社/長野県		■フォーラムエッセイ	記憶を味わう	大高 翔
■変革は人により	有田 耕一 株式会社有田牧場/熊本県		■まちづくりむらづくり	美山日本蕎麦研究会/京都府南丹市	渡部 康子
			■書 評	『石川三四郎 魂の導師』	宇根 豊
			■インフォメーション	AFCフォーラム総目次(2020年1月~12月) セミナーやオンライン相談会で農水産物の輸出を支援しています 若手職員が集い農林漁業の将来を議論	
			■その他	みんなの広場・編集後記	
			■農業経営アドバイザー	二人の言葉が示す 新規就農者 五つの心得	古高 伸一

アグリフードEXPOオンライン

国産農水産物の展示商談サイト・コンシェルジュがご案内いたします

出展者を募集しております。詳細はウェブサイトでご確認ください

佐賀支店
本 店
セミナーやオンライン相談会で
農水産物の輸出を支援しています

今 年4月、佐賀支店農林水産事業は、公庫のコンサルティング

融資活動推進にあたり、農業法人の支援ニーズを把握するため、佐賀県農業法人協会の会員企業48社を対象に「ご経営課題等に関するアンケート」（有効回収数30社）を実施。

その結果、コロナ下の経営課題として多かったのが、「人材確保・育成」（83%）と「マッチング」（63%）で、「金融支援」（60%）、「6次化」（43%）、「海外展開」（40%）と続きました。海外展開については「輸出の開始・拡大」を挙げる企業が40%に上るなど、関心の高いことが確認され、輸出の専門家による個別



予想以上の申し込みがあり、農業者の輸出への関心の高さがうかがえました

アドバイスを求める声も多く寄せられました。

そこで佐賀支店では、輸出に取り組みたい農業者に向けた「輸出チャレンジセミナー」を開催。九州の農産物の輸出を手掛ける株式会社シンクローバル（鹿児島市）代表の川原新一郎氏を招き、「農産物輸出の最新ニーズと初めての輸出準備」をテーマとした講演の他、個別相談会を開催し、計4事業者に対して具体的なアドバイスをおこなっていました。

川原氏は輸送方法や現地との連絡など輸出実務の具体的な課題を分かりやすく説明。海外独自の嗜好や売れ筋商品を事例に示しながら、「海外でのニーズを正しく把握し、積極的にチャレンジしていくことが重要だ」と話しました。

参加者からは「コロナ渦において海外バイヤーに対し、どのようにアピールすればよいか」など具体的な質問や、「夢だった輸出が身近になりとてもうれしい」との感想も寄せられました。

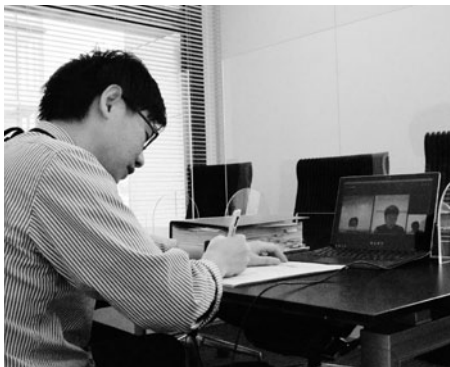
8月7日、於：佐賀市、参加者：公庫お客さまなど15人

国 産農水産物・食品の輸出を支援する「トライアル輸出支援事業」を活用したオンライン相談会を実施。米、有機サツマイモ、高糖度トマト、牛肉、黒ニンニク、

冷凍果実などを扱う生産者や、水産加工品を手掛ける企業など、輸出に意欲のあるお客さま30先と貿易会社7先が参加しました。

「商談の機会が限られるなか、貿易会社と直接話せてよかった」（イチゴ生産者）、「画面越しでも商品の魅力を伝えられたと思う。新たな知見も得られ今後が楽しみ」（食品加工業者）、「離れた地域の生産者に疑問や課題などを聞けて勉強になった」（貿易会社）などの声が寄せられ、オンラインのメリットを活かした相談会となりました。

9月14～18日、於：公庫本支店



計49件のオンライン相談を実施しました

本 店
若手職員が集い
農林漁業の将来を議論

農 林水産省の若手有志職員の勉強会「チーム2050」と

日本公庫農林水産事業本部の有志が意見交換会を実施。DX（デジタルトランスフォーメーション）など新技術の活用や農山漁村の活性化、公庫のコンサルティング融資活動や農林漁業経営への支援などについてグループ討議しました。

さまざまな意見が挙がるなか、「技術革新の時代においても主役は農林漁業者。政策当局と政策金融が連携し、経営課題の解決支援に取り組みべきだ」という結論で合意。盛況のうちに閉会しました。

9月16日、於：農林水産省、参加者：27人



白熱した議論が続き、意見交換会は2時間に及びました

◆9月号『持続する水産業への視点』を興味深く読んだ。

「鮮魚をさばくのが面倒」「共働きの調理にかける時間がなかなかとれない」などの理由から、魚は現在、消費者に敬遠されがちだ。そんな需要の落ち込みを食い止めるべく小野食品株式会社(岩手県釜石市)は150品目以上の調理済み商品に加工し、直販している。「三陸おのや」というブランドで、売れ行きは好調だという。

「われわれは加工食品をつくっているのではなく、魚料理をつくっているのです」という代表取締役社長の小野昭男さんの言葉に強くひかれた。それだけ自信のある製品つ

くりをされているということなのだろう。

今年の「集もり需要」のように、消費者のライフスタイルは変化する。それに対応していけば、まだ需要拡大の余地はあるに違いない。

今後とも、ぜひ頑張ってもらいたい。
(広島市 巨幸男)

11月号23ページの会社名の表記に誤りがありました。

誤) AGURI MOON
正) AGRIMOON

読者の皆さま、関係者の皆さまにご迷惑をおかけしたことを深くお詫びいたします。

ご意見・ご感想をお寄せください

本誌では読者の皆さまからのご意見・ご感想を幅広く募集しております。特集企画への感想や誌面に登場していただいた農林漁業者へのメッセージ、農林漁業についてのご意見、また、誌面へのご意見、ご提案もお待ちしております。お名前、ご住所、電話番号を記載のうえお送りください。

ご意見を掲載させていただいた方や参考にさせていただいた方には、図書カードを差し上げます。

【送付先】

メール anjoho@jfc.go.jp FAX 03-3270-2350

郵送 〒100-0004

東京都千代田区大手町1-9-4
大手町フィナンシャルシティ ノースタワー
日本政策金融公庫 農林水産事業本部
AFCフォーラム編集部宛て
Tel. 03-3270-2268



右記のコードもご利用ください →

編集後記

◆特集は、上級農業経営アドバイザーの村上二幸さんに依頼。豊富な経験に基づく貴重なアドバイスを、惜しみなく披露していただきました。「地域再生への助走」は、古代染色植物の日本茜復活の取り組み。こうした伝統産業と国内農業とが結びついた取り組みが少しずつ出てきています。モノクロ記事のため表紙を茜色のイメージにしてみました。(平野)

◆特集で取り上げた東京谷農協で「はっと」させられたのは「子」が「親」の経営を引き継ぐには「2世帯分」の所得を稼ぐ必要があるとのお話。農業でも親子が別々のライフスタイルを持つのは当たり前。必要な所得は増加傾向。親子承継のハードルの高さや、承継する「子」が必要な所得を得られるよう支援する地域の大変さを再認識しました。(高雄)

◆「新・農業人」取材は、うれしいことばかり。取材打診時2日後に今秋の収穫が終わると聞き急いで訪問。アスパラや圃場を拝見できました。一夜漬けで勉強したアスパラ関連本が吉見さんの営農バイブルだったのもうれしい一致。同行してくれた支店の先輩職員が、吉見さんの想いや戦略を理解し信頼関係を築いている様子には、さすがーと思いました。(城間)

◆誰の心にも記憶にも、強く残ることになった1年が終わろうとしています。気持ちも沈むこともままあるなか、「観天望気」で玉村さんの語る日本産ワインの未来に前向きな気持ちになりました。これまで目の留まらなかつた地域や産業に光が当たり、新しい方向に大きく動き出す。そんな芽吹きを見つけるチャンスなのかもしれません。(竹中)

AFCフォーラム Forum

■編集

前田 美幸 平野 伸介 高雄 和彦
山本 晶子 城間 綾子 竹中 夕美

■編集協力

青木 宏高 村田 泰夫

■発行

(株)日本政策金融公庫 農林水産事業本部
Tel. 03(3270)2268
Fax. 03(3270)2350
E-mail anjoho@jfc.go.jp
ホームページ https://www.jfc.go.jp/

■印刷 佐伯印刷株式会社

■販売

株式会社日本食糧新聞社
〒104-0032 東京都中央区八丁堀2-14-4
ヤブ原ビル
Tel. 03(3537)1311
Fax. 03(3537)1071
ホームページ
http://info.nissyoku.co.jp/koudoku/
お問い合わせフォーム
http://info.nissyoku.co.jp/modules/form_mail/

■定価 523円(税込)